

## ■ 第7回企画展 概要

名 称: 第7回企画展 『電気は人なり～電気事業に生命を賭けた男たち～』

開催期間: 平成19年2月27日(火)～平成19年11月4日(日)

開催場所: 電気の史料館

住所 / 横浜市鶴見区江ヶ崎町4-1 電話/045-613-2400

休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始

開館時間/9:30～17:30(入館は17:00まで)

入館料 / 大人 300円 大学生 200円 高校生～小学生 100円

ホームページ/<http://www.tepco.co.jp/shiryokan/index-j.html>

企画展構成:

### 「長距離送電への道」

エジソンの直流による電気事業の開始、交流の父ニコラ・テスラとエジソンによる交流直流論争、ツイペルノウスキーの変圧器の発明や、ドブロウォルスキーによる三相交流の発明など、長距離送電の幕開けを、欧州の博物館から貸与された貴重な展示物を交えてご紹介いたします。



### 「日本の電気事業黎明期」

藤岡市助の貢献により1887年に東京電燈が日本橋で日本初の発電所の運転を開始。藤岡と岩垂邦彦との日本での交直論争。京都における初の営業用水力発電所の建設や電気事業会社の勃興。電気事業初期の公文書類などが綴られた貴重な資料も展示いたします。



### 「電力界の戦国時代」

水力発電による高電圧長距離送電が主流となった1907(明治40)年以降、激しい市場競争が展開された電気事業の戦国時代の状況、その後の経営課題や電気の安定供給などの課題に挑んだ松永安左衛門や福澤桃介など戦国期の電力人と当時のエピソードをご紹介いたします。



### 「電力国家管理の時代へ」

戦時体制へ向かう中で台頭する電力国家管理論。松永や小林一三らによる抵抗及ばず国家管理体制に突入。全国統一の日本発送電株式会社と9つの配電会社が誕生しますが、渇水と石炭不足に見舞われ破綻。国家管理への賛成・反対の激論を示す文書類等をもとに、電力の一大転機となった時代をご紹介いたします。



### 「九電力体制へ」

太平洋戦争終結後の再編成。一貫して電力民営を訴え続けた松永による強引とも言える主導と、池田勇人ら重要人物との折衝の積み重ねにより、民営による発送配電一貫の9電力体制の決定がGHQより下されました。敗戦直後の電化生活の様子も織り交ぜながら再び民の手に取り戻し、現在の体制となった電気事業についてご紹介いたします。

